

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2015年9月28日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

道社保学校 in 江別(10/12)まで2週間! 誘い合って参加しましょう!
労働者・年金・生活保護、各分野から「実態とたたかい」の報告もあります



「年金裁判」低年金の実態や不安告発！憲法25条活かせ！

18日、年金引き下げ違憲裁判(第2回口頭弁論)が行われ、年金者組合道本部委員長の渡部務原告団長が陳述しました。「年金生活者が集まれば『高齢者は早く死ぬということか』『年金がどんどん減って、どうなっているの』など、不安と不満が広がっている。年金切り下げは、自分だけでなく、子や孫にも影響するので、

原告になった」と陳述しました。年金が月額31,967円で、娘と暮らす81歳の女性の声を紹介。「老年になって仕事も収入もなくなった私にとって生活を保障する年金は有難い必要な制度です。しかし、低い年金額から後期高齢者医療保険料、介護保険料、医療費、介護利用料を払いますが、高騰が続けば生活や治療がどうなるか不安です」

また、「年金は、憲法第25条2項に基づいて国が行う社会保障制度です。財政上の施策だけでなく、人間としての尊厳が守られ、憲法25条を活かした高齢者の目線での年金制度であってほしいと心から願うものです」と訴えました。

国連の社会権規約委員会も日本政府に対して「最低保障年金制度を実現しない理由として、財源問題を挙げるのは許されない、まして日本ではそれは理由にならない」「最低保障年金制度の導入と男女格差の改善」などを勧告していると指摘。原告の中には病気で急逝された方もいる。原告は高齢で、いつ亡くなるか判らないので速やかな審理とともに、公正、公平な裁判を求めました。

TPPは食も医療も影響深刻

TPPジョイント講演会

12日、医療九条の会・北海道が、「食と医療から考えるTPP講演会」を行い、さっぽろ食まちネット代表の富塚とも子さんと北海道がんセンター名誉院長の西尾正道さんが講演しました。

富塚さんは、「命を脅かす遺伝子組み換え食品とTPP」と題して、遺伝子組み換え食品の健康被害やバイオ企業の利権と農業支配について指摘しました。日本には、すでに遺伝子組み換えのトウモロコシ、大豆などを原料とする食品が輸入されていますが、食品に使われている原料の上位

3品目にしか表示義務がなく、5%までなら混入していても「遺伝子組み換えでない」と表示できると、TPPに参加するとさらにその影響が増すと批判しました。



西尾さんは、「TPPがもたらす医療崩壊と日本人の健康問題」と題して講演し、TPPは21分野にわたり、秘密裡に交渉が進められ、生存権、人格権、知る権利を侵害し、ISD条項によって日本の主権も侵害されると批判しました。残留農薬問題も深刻と指摘し、医療への影響についても説明しました。

参加者は、「遺伝子食品の怖さがわかった」「モンサント社がベトナム戦争で使われた枯葉剤を作ったと聞いて驚いた」「医療への影響も大変」などの感想が寄せられました。

TPP交渉からの即時撤退を求める緊急アピール行動

10月1日(木) 12時15分~12時45分 大通公園西3丁目

9月30日からアメリカでTPP閣僚会合が開催されます。7月末の閣僚会合では大筋合意ができず「漂流」の可能性もありますが、安倍政権は、国民の反対の世論や自らの公約・国会決議に反して、TPPの早期妥結をめざして、米や乳製品の輸入枠拡大を譲歩し妥結を急いでいます。即時徹底を求める行動にご参加下さい。